

# 情熱 大崎

People with the passion of Osaki

**身** 長百九十三センチメートルの恵まれた体とたくいまれなセンスで、日本バスケットボールリーグ(以下JBL)で活躍する鳴子温泉地域出身の加藤真さん。プロバスケットボールチーム「レラカムイ北海道」の一員として、試合で観客を魅了します。

小学四年生のとき、鳴子小学校で活動しているバスケットクラブの練習風景に興味を抱き、バスケットボールを始めました。「初めてシュートを入れたときの、ゴールネットを揺らす音が今でも忘れられません」と話してくれた加藤さん。ゴールを決めることだけでなく、攻守の切り替えが早い試合展開や対戦相手との駆け引きなど、今まで感じたことのない楽しさに、すぐに夢中になったそうです。

それからは、毎日のように練習し、上達するために努力を続けました。その成果が、高校時代で実を結びます。東北学院高校三年生のとき、とやま国体の少年の部で宮城県代表に選ばれ、見事優勝。そして、東北学院大学一年生のときには、みやぎ国体の成年の部のメンバーとして出場し優勝、チームの勝利に大きく貢献しました。

「常に目標を掲げ、挑戦していきたい」と話すのとおり、現在はJBLで優勝を目指すとともに、オリンピックなどの国際大会に出場する夢を持っています。「自分が活躍し、バスケットを伝えてくれた恩師や支えてくれた人たちに恩返しをしたい。市内でバスケットをする子どもたちに、夢を与える存在になれたら嬉しいですね」と語る加藤さん。夢をかなえるため、今日もコートでボールを追いかけます。

## 夢という名のボールを 追いかける挑戦者

プロバスケットボール選手

加藤真さん(鳴子温泉地域出身)



◀ JBL での試合中、ゴールを目指す加藤さん。支えてくれた人への感謝の気持ちを忘れず、大舞台上で活躍しています。加藤さんのチームでの活動状況は、レラカムイ北海道のホームページ(<http://www.rerakamuy.jp/>)で見ることができます。



Very interesting in Osaki

# 津興 々味

## 鹿島台地域発

### みんなで守ろう！シナイモツゴ

#### シナイモツゴ

中部地方以北の本州に分布する日本固有亜種。平野部の浅い湖沼に生息するコイ科の淡水魚で、体長は最大8cm程度になる。近縁種のモツゴよりもずんぐりとした体型と短い尾柄が特徴。

大正5年に干拓前の品井沼で発見され、県内の地名を冠する唯一の魚である。

環境省レッドデータブックでは、近い将来における絶滅の危険性が高い種として絶滅危惧I B類、宮城県レッドリスト絶滅危惧I類に登録。大崎市でも市指定天然記念物に登録して保護している。

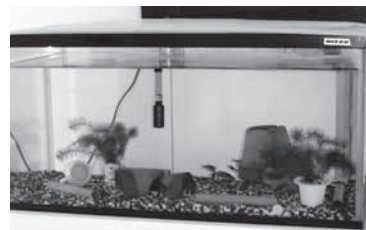


絶滅危惧種に登録されている希少種

このコーナーでは、「大崎ライフ」をより楽しむための物や技、場所などを毎月紹介していきます。



▲ NPO 法人シナイモツゴ郷の会による池干し作業。天敵ブラックバスやブルーギルから大崎の宝シナイモツゴを守るための大切な作業です。



▲ 撮影に協力いただいた鹿島台商業高等学校では、里親として大切にシナイモツゴを育てています。NPO 法人シナイモツゴ郷の会では、里親を募集しています。シナイモツゴ郷の会ホームページ(<http://www.geocities.jp/shinaimotsugo284/>)

**市** 天然記念物シナイモツゴをご存知ですか。シナイモツゴは、市内では鹿島台地域の三か所のため池のみで生息が確認されているコイ科の小魚です。

大正五年に干拓前の品井沼で初めて発見され、発見地である品井沼にちなんでシナイモツゴと命名されました。

五月から七月の繁殖期には、雄は体色が黒ずみ、眼が半月型となり、精悍な顔付きになります。さらに口の周りに追星と呼ばれる白い斑点が現れます。そして、石などに縄張りを形成し、雌を引き入れて産卵させます。産卵後は、雄が縄張りを離れずに外敵から卵を守ります。

以前は、関東以北の湖沼には普通に見られた魚で、時には食用にもされていたほどでした。しかし、戦後に近縁種のモツゴが生息域へ進入、異種交雑により駆逐されてしまい、関東地方ではすでに絶滅しています。

宮城県内水面水産試験場が平成五年に旧品井沼へ注ぐ広長川上流の桂沢ため池で約六十年ぶりに再発見し、旧鹿島台町で天然記念物として厚く保護し、大崎市となった現在も引き続き保護されています。

また、現在はブラックバスなどの外来魚の侵入が最大の脅威となっていますが、NPO 法人シナイモツゴ郷の会により積極的な保護活動が行われています。

鹿島台小学校や鹿島台商業高等学校では、シナイモツゴ郷の会の指導のもと、里親として繁殖に取り組んでいます。こうした活動が広がれば、ふるさとの魚であるシナイモツゴが再び身近な湖沼で泳ぐ姿を見ることができるようになります。

シナイモツゴを見る機会があったら、のぞいてみてください。雄のちよつと怒ったような愛きょうのある顔。もしかすると、人間の環境破壊を怒っているのかもしれない。